

溝の口キリスト教会 ワインディチャペルの歴史



1975年4月開拓伝道開始 最初の 名前は「下作延キリスト伝道所」であった



仁井田義政師と幸子師は、中央聖書学校を卒業とともに結婚。そして川崎市高津区に自主開拓を開始しました。場所も幸子師の実家の洋間8畳を集会時だけお借りしての出発でした。8畳間には、グランドピアノが置かれており、5人ほど入ればいっぱいでした。クリスチャンは牧師夫妻二人だけという出発でした。牧師は鉄工所に勤め、幸子師は幼稚園に勤めながらの出發でした。

共に25歳という若さであり、恐れを知らない出發でした。

1976年 教会名を「溝の口キリスト教会」に 変更し近くの借家に移動する



平瀬川近くの家が借りられると聞いて移動しました。しかし、家は傾いており、裏を走る電車の騒音と、前を通る自動車の騒音とで、一日目から大変でした。

ベニヤ板で十字架を作り門に貼り付け、教会の看板は雨戸の捨ててあったものを拾ってペンキを塗り作りました。

はじめての特別集会を前にして平瀬川が氾濫し、床上浸水の目にあいました。

それでも救われる人々が与えられました。

1978年6月教 会堂完成

- 溝の口キリスト教会として、はじめての会堂が完成しました。真っ白な教会で、屋根にも大きな十字架がつけられ感動しました。
- 神様はこの教会堂でも多くの人々を仲間に加えてくださいました。



1990年二回目の新会堂完成 名前も溝の口キリスト教会(ワインディチャペル)と命名



前の会堂において礼拝出席者が多くなり、狭くなつたため、第二回目の会堂を新築しました。

いつも聖靈の風が強く吹いている教会となるようにと、願って「ワインディチャペル」と命名しました。

さらに礼拝に集う方が加えられ、現在は日曜日に3回の礼拝を行なっています。

2007年 300体に入る納骨堂を完成
教会のお墓は可愛く明るくの
牧師のイメージによって作られました。



- 納骨堂内部に飾られたステンドグラスと角笛です。

